

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
82

2022 皐月・水無月

特集 / 『金剛禅教団の理念』

— そこに懸けた一念

金剛禅教団の理念

——そこに懸けた一念

金剛禅教団は、このたび「教団の理念」を制定した。これは、一つの組織体として社会の中で存在し、永続的に活動していくための、いわば「最上位の目的」というものである。各々の具体的な活動には各々の目的があるが、教団の理念は、それら諸活動のすべてを束ねる目的の中の目的なのである。そこで本号では、大澤隆管長に教団の理念に懸けた一念を語っていただいた。

2022年度の抱負

——いよいよ新しい年度が始まりました。大澤管長の抱負をお聞かせください。

大澤 2020年度が「ホップ」、2021年度が「ステップ」、そして2022年度は「ジャンプ」の年にしたいと思います。振り返ると2020年度は、いつ収まるのかもわからないコロナ禍に見舞われ、大変苦しい一年でした。しかしそのような中でも、「門信徒増加」に向けてできることは何かを考えた結果、教区のウェブサイトを作りそれを充実させていこうという、一つの大きな方針を立てることができました。こうして2020年度は「ホップ」の年と定めたのです。そして、翌2021年度もおそらく

コロナ収束は期待できないだろうと考え、オンラインを使用した活動に変更もしくは併用することを前提に、各種事業を進めていく「ステップ」の年度といたしました。

——「ステップ」の手応えはありましたか。

大澤 そうですね。ウェブサイトは将来的に個々の道院の活動を外部へ発信し、興味をもっていただくための基盤となるものです。ウェブサイトを充実させるという方針のもと、教区長をはじめ、教区広報委員の方々のご尽力もあって、4月1日現在、九割の教区でウェブサイトが完成することができました。また、残り一割の教区もあともうひと頑張りというところにまで来ています。

一方、教区や小教区で集まる機会が

得られず、研修会・講習会の予定が立たない一年でもありました。今もってコロナが収束していない状況に鑑みるに、決して楽観視はできないものの、ワクチン接種の普及も進んできていることから、活動を「しない」のではなく、「注意して実施する」、あるいは「やり方を変えて実施する」という考え方で取り組んでいきたいと思えます。そして過去2年間、布教活動充実のための下拵えとして取り組んできた事業を、今年度は何としても実を結ばせたいと考えています。

——2022年度は「ジャンプ」の年ですね。

大澤 2022年度に掲げた事業計画を着実に遂行します。私を先頭に本山職員も、教区長、道院長の活動を支えるべく、誠心誠意取り組んでいく覚悟です。

金剛禅教団の理念

全門信徒・道院長・役職員が人格を高め、幸福を追求するとともに、金剛禅の価値を創造し、物心両面において調和のとれた、平和で豊かな社会づくりに貢献する。

- 一、人間本来の使命を自覚し、たゆまず自己変革し続ける人をつくる。
- 一、社会変革に果敢に取り組む、志あるリーダーをつくる。
- 一、金剛禅運動(幸福運動)を先導する、優れた道院長をつくる。

教団の理念

——このたび、金剛禅教団の理念が新しく制定されました。

大澤 金剛禅には確固たる教義——
ダーマ信仰——が存在します。人間は大宇宙の大霊力ダーマの分身として存在し、その分霊たる靈魂を所有しています。そして、靈魂とその住家である肉体を修養することで、真に己を抛り所とし、世のため人のために役立つ人間になることを目指す。これが教義の根本です。

金剛禅門信徒にとっては、教義が修行の背骨です。その一方で、教団という一つの組織体が事業を展開するにあたっての背骨となる「理念」を定めることの必要性も感じていました。

——教団の理念にはどのような思いが込められているのですか。

大澤 まず、門信徒・道院長・役職員の全員が自己の人格を磨き、これを高めることです。ここから出発します。私たちは修行することを旨とする団体でありますから、つまるところ自己の人格、靈魂を修養していくことが出発点であり、正しい姿でもあるのです。そして、自己の人格を磨き、高めていくことによって、正しい判断力や決断力、行動力を体得していきます。ま

た、困難なことに遭遇しても取り乱すことなく、泰然自若とした心を持って対処したり、あるいは、自分と異なる主義・主張を持った人をも排除せず、相互理解が得られる道を探る努力をしようとしています。

——修行によって心を磨き、高めるのですね。

大澤 金剛禅は拳禅一如、力愛不二の法門ですから、肉体と精神を一つとして鍛えます。開祖は、このように示されました。

「本当の強さというものは裸になったときの強さなのです。それは精神力が半分以上。……(中略)……ある信念を持って行動すれば裸で身を守ることができ、命ある限り努力すれば何事かも成せる」(『強さとは何か』文春新書、p39)

加えて、「『幸せ』とか『生きがい』というものは、人によって捉え方はさまざまでしょう。が、私は、人間関係の豊かさ、これしかないと考えている。そして金でも地位でも、力でも強さでもない、人間関係の豊かさに価値を感じる」、この考え方が人類規模まで深まっていっていき、真に幸せな世界が可能になると信じている」(前掲書、p44)
と幸福感についても示されています。

価値を創造する

大澤 続いて、教団の理念では「金剛禅の価値を創造」することを掲げました。開祖は、少林寺拳法を「身心一如・自他共榮の新しい道」と定められました。それは少林寺拳法が創始された時代において、たいへんセンセーショナルなもので、道を求める若者たちの心をグッと掴んだことでしょう。しかし、たとえ当時は真新しかったものでも、それを刷新していかない限り、やがて古びていってしまうものです。きっと開祖は、「お前ら、何をやっとするんだ。75年も経って、まだわしが作ったレベルでとどまっているのか。もっと進化させなさい」とお叱りになるでしょう。私たちには金剛禅の価値を創造していく役割があるので

——開祖が創造された金剛禅の価値とは何でしょうか。

大澤 開祖の目の付け所の偉大なところは、2500年前に釈尊が説かれた教えと1500年前に達磨大師が伝えたという行法を現代に新しい形で蘇らせたことです。加えて、自己を修め、自己を確立するという釈尊の正しい教えに立ち返っただけでなく、組手主体による自他共榮の実現という豊かな人

間関係のあるべき姿を教育システムとして体系化させたことです。それを今度は、令和を生きる私たち一人ひとりが、社会に目を向け、有形無形のシグナルをキャッチし、少林寺拳法に内在している宝を現代に適した形で創造していく必要があります。



——時代が変われば、社会問題も変わっていきますね。

大澤 つまるところ、「人の質」の一言に帰着しますが、私たちは人の質を高めていく活動によって、人間愛に満ちた社会を創っていくことに本気で取り組んでいく運動体です。だからこそ、社会の変化への感性を高め、社会問題に対して確固たる考え方、信念、価値観を持って人づくりを実践していかなければなりません。

● 昨今、本山では「少林寺拳法を教える」ではなく、「少林寺拳法で教える」と指導者に呼び掛け、確認をしています。これは目的と手段を取り違えることなく、開祖が何をしたかったのか、金剛禅は何のために誕生し、存在しているのか、という根源的な問い掛けを常に自らに発し続けることに他なりません。

——少林寺拳法で教える……、重要な問い掛けですね。

大澤 教区や道院のウェブサイトは、それぞれの地域における道院活動を、価値として発信するための「ツール(道具)」ですから、ぜひ積極的に更新していったほうがいいと思います。

具体的三項目

大澤 今回定めた教団の理念では、さ

らに三つの小項目を付加しています。一つ目は、「人間本来の使命を自覚し、たゆまず自己変革し続ける人をつくる」です。

——「人間本来の使命」とは何でしょうか。

大澤 それは一人ひとりが自ら答えを出すべき命題というべきものですが、私たちは信条の第一で、「我等は、魂をダーマよりうけ、身体を父母よりうけたることを感謝し、報恩の誠をつくさんことを期す」と唱えています。やはり根っこはダーマ信仰です。自分がこの世に存在していることに感謝することから始まります。

続けて、「世界の平和と福祉に貢献せんことを期す」、「平和を守る真の勇者たることを期す」、最後に「理想境建設に邁進す」と唱えます。このことを一人ひとりが心の底にまで思えるかどうか、いや思えるような集団にしていきたい、と思っているのです。

そして、人間本来の使命が自覚できたら、その使命を果たすためにたゆまず自己変革し続ける自分になる、ということなのです。

——使命感を持った人の心はブレません。

大澤 それが信念というものです。

そして二つ目が、「社会変革に果敢に取り組み、志あるリーダーをつくる」です。

「まず自己の信念を確立し、それに基づいた確かな情勢判断を下す能力、次には決断力、そして決断したら率先陣頭に立ち、万難を排して実行に移す真の勇氣と行動力等を身につけることが必要にして不可欠である。とりわけ、指導者を育てる運動の指導者であれば、なおさらである」(1974年度全国道院長講習会資料より抜粋)

ですから、金剛禅運動を拡げていくためには、優れた道院長を一人でも多くつくっていくことが重要で、優れた道院長の下で育った門信徒が、やがて優れたリーダーとなって社会変革に果敢に取り組み。これが、私たち金剛禅教団が理想とする運動の姿なのです。

——これら三つの小項目はつながっているのですね。

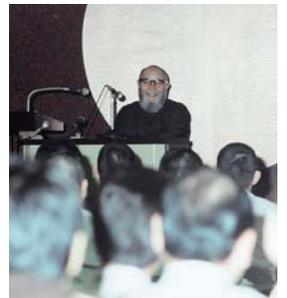
大澤 教団の理念では、まず幹として「全門信徒・道院長・役員が人格を高め、幸福を追求するとともに、金剛禅の価値を創造し、物心両面において調和のとれた、平和で豊かな社会づくりに貢献する」と定め、さらにその細目として三項目を定めました。ぜひ道院長、門信徒の皆さんには、教団の理念を自らの肚に落とし込んでいただきたいと思います。そして、ゆるぎない信念を持って、共に金剛禅運動に取り組んで参りましょう。

大澤 だからこそ不撓不屈の達磨大師を見習うのです。リーダーは学び続け、自らの人格を高め、志を確立し、課題を克服するだけの気力・体力を養っていかねばなりません。そして三つ目が、「金剛禅運動(幸福運動)を先導する、優れた道院長をつくる」です。道院長は、先の二つの項目を兼ね備えた手本となるべき存在と言えます。開祖は、金剛禅運動指導者としてどう在るべきかについて、次のように示されました。



開祖語録 ダイジェスト

1973年8月
大学合宿



私だって人間に対する深い失望を感じることに、正直言っている。たとえば近代の戦争、とりわけ大量殺人に対する我々人間の鈍さ、無関心です。広島や長崎に投下された原爆がまさにそうでした。殺す側は遙か上空でスイッチを押すだけ。地上で子供たちが焼けただれ、赤ん坊や母親が熱で溶けてしまおうが……。瞬時に処理されるあまりにも大規模な殺人だから、やったほうは「任務完了」と平然としていられる。その可能性が再び近い明日にもありえる。それが今日の環境でありながら、我々人間はいまだに無関心を装っているということです。

が、それでもどうしたらいいだろうと私は考え続けた。人間としての良心を一人ひとりが取り戻し、自分以外の他者の幸せも半分は考えられる、感じられる——そういう世の中に変えていきたいとやはり思う。

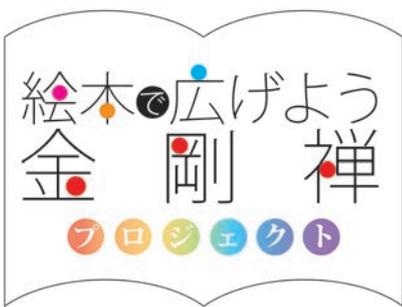
これは君らの将来にかかわる大事な問題なんぞ。権力を握った一部の連中が、てめえらの勝手な理屈を振りかざし、我々を戦場に駆り出して人殺しせいと命令する日が、もう一度来るかもしれない。そのとき「どうしても嫌だ」と頑張れる人間に、今からでもいい、自分を鍛え直

していけよ。

君たちは戦争を知らないから、「オーバーなことばかり言いやがって」なんて思っているかもしれない。でもだ、いざというときが来たなら、君らは確実に単なる消耗品の一つに過ぎなくなる。そのときは外国に逃げますだけのヘチマだのといった台詞は通用しない。世の中が本当はどう動いているのか、もっと勉強して「正気」になれよ。

そして、普通の人間の心や良心に芽生える思いには国境などなく、俺にとっても悲しいことは、あの人たちにとっても悲しいことだという——この単純な道理、わかろうとしてみるよ。人としての喜び、痛みや怒り、また親子の情や恋人、友達を愛しむ気持ち、そこには国の別、人種の違いは基本的にはないはずだ。このことが多少でも理解できたなら、どこでどう起きるかも分からない悲劇、あるいは今の民族が受けているかもしれない痛み、それらを自分たちのこととして考えたり感じたりすること、必ずできるはずだ。

普通の人間の心や良心に芽生える思いには 国境などない



絵本で広げよう
金剛禅プロジェクト
顧問 三浦伸也

開いたり閉じたりする動きですが、ぼくの絵本は、びよんたの片手がちぎれてしまっています。でも、あえてそのままにしています。なぜなら、子どもたちから「なんで片手なの？」と聞かれたことがないからです。彼らは何の疑いもなく、片手で同じ動きをしてくれます。「みんなはできる？」の一言が、こんなステキな反応につながることもあります。

絵本から脱線しても気にせず、質問してみてください。思わぬ反応が待っていますよ。

質問で子どもの反応を引き出す

ぼくは、子どもの反応が楽しいから絵本を読んでいます。もっと反応を引き出したいから質問をします。思いもよらないことが起こって、刺激的ですよ。

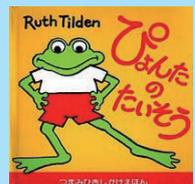
例えば、『びよんたのたいそう』という絵本を読んだときのこと。この絵本はそれぞれのページの仕掛けを動かすと、かえるのびよんたが屈伸したり、腹筋したりするしかけ絵本です。

子どもたちに「みんなはできる？」と聞くと、一斉に屈伸が始まったりします。最後のページは、びよんたが両手両足を

最近読んだお薦めの絵本

◎びよんたのたいそう

作・絵：ルース・ティルデン
訳：かがわ けいこ
出版社：大日本絵画



ゆかいなかえるが、みょうちくりんなたいそうをする、なんとも変なしかけえほん。

それが、けっこう面白いのでひっぱりだこになっています。

勘について

「勘」とは、「人間のもつ、最もすぐれた感覚は、眼で見て感じたり耳で聴く五官の感覚ではなく、響きのない声を聞き、形のない心を感じるような、時間と空間とを超越した或る種の感覚である。俗に六感と云われているものである。」（『少林寺拳法教範』）

我々は組手主体の修練において、他と我との間合いを学び、八方目も学んでいくはずである。また、道院内の修練に終始せず、社会実践してこそ意味があるとも教えられてきた。

八方目で眼を配り、気を遣い、心を配る。そんなことを開祖は教えていた。人の悲しみや苦しみを自分のことのようにとらえ共に泣き、また喜びについても、自分事のように喜んだという。それが人たらしめる所以であったのであろう。それは、決して難しいことではなく、そつと荷物を持ってあげる、困っている人に声をかける、人の嫌がることを言わない、しない、させない。自分自身には厳しく、つらい時にも暗い顔をしない、マイナスイオンを飛ばさない。そんな当たり前のことを淡々とすることが大切だと思うのである。

我々金剛禅門信徒は、少林寺拳法を学びながら、他人の立場に立って行動する、行動できるように鍛えていくのである。そうすれば、人から信用され、更には信頼される、そんな人格になっていくのである。

「この勘は我々の生活の中に、かなり重要な存在であり、日常生活の場合に於て、左せんか右せんかと判断に迷うときに、これを決めるのは即ちこの勘なのである。」と続く。

その判断も一か八かのものでは決してなく、日頃から積み重ねた経験と磨き上げた感性で行わなければならない。その延長線上に自己確立なるものがあるのではないのか、それ故に自他共業も存在するのではないのか。

縁起の理法を学んでいる我々は、こうであったからこうなった、こうなっているから将来こうなるだろう、と絶えず考える習慣がある。たぐさんの指導者から、自分の周りには人が集まってこない、人が少なくなつたとよく聞くようになった。それは社会環境や偶然のものではなく、必然というものである。必ずその原因となるものを自分自身が持っているのは容

易に気が付くはずである。ところが自身のことになるとどうしても目が曇ってしまう。だからこそ苦言を呈してくれる人が必要なのである。立場や年齢が上がれば上がるほど、言ってくれる人は少なくなる。生涯修行であると言われる開祖の思いはここにある。

勘を養うには、感性を磨くことが必要であり、それによって感受性が高まるのである。今後起こりうるであろう社会的な変化に対応するために、必要不可欠なものである。

今後ますます少子化、高齢化が進んでいく社会において、我々はいかに生きれば良いのか。漫然と生きてはいけなくなる。自分自身が気づき、後進の人たちに伝え教え導く。

眼光紙背に徹するまで教範を読めという。その中には、人としての生き方を指し示す、道が明確に記されているからだ。自分自身の勘を働かせ、日常に活かしていく、そうすればもっと平和で豊かな世界が現れるのである。

「平素からのたゆみない真剣な修行こそ、勘を良くする方法である。」



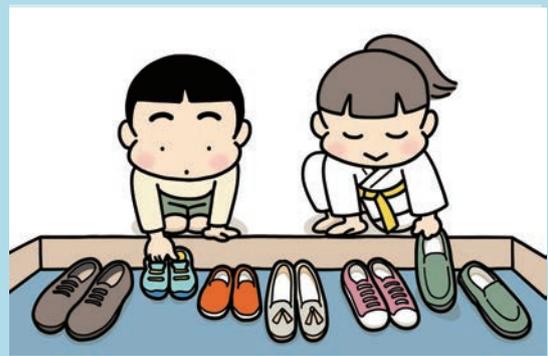
チャレンジ①

チャレンジ②



どうじょう
この道場、すごくいいな。
「いいね!」と思うところを
なるべくたくさん見つけて
みよう。

しょうねんとくほん
『少年読本』p.28-29



しょうりんじけんぽうけんし
なぜ少林寺拳法の拳士は、
靴くつをそろえるのでしょうか?
そろえることで何かいいこ
とはありますか?

しょうねんとくほん
『少年読本』p.28

道院長

元気の素



たかさご
兵庫県・高砂道院
道院長 おうちしんや
大内信弥(48歳)

指導の方針

「みんな無限の可能性を持った可能性の種子である。目標をもって努力すれば叶うと信じ、行動し続けることが大切である」ということを日々の修練の中で伝えていきます。

そのためには、「自分は、やればできる」と実感させてあげることが必要だと考えています。例えば受身は、何日も繰り返し練習すると一定のレベルまで皆できるようになります。できるようになった時は、本当に嬉しそうな表情をします。そしてそれが自信になり、後は楽しいので放っておいても自分で稽古してくれます。こういう経験を繰り返すことにより、努力すればできるようになることを学び、そして継続することの大切さも会得するようになります。

道院長冥利に尽きると思う時

ありがたいことに、私の同級生や知人が道院にお子さんを預けてくださっています。自分に託されていることにしっかりと応えたいいけないという責任

感はもちろん、それ以上に信頼されているという何とも言えない嬉しさを感じます。これこそ道院長冥利に尽きる時です。

また、家で稽古したことを見せてくれたり、学校や家であったことなどを話してくれたり、小学生低学年の拳士たちは非常に純粋で癒されます。毎回の修練が私に力を与えてくれ、修練に行くことにより、仕事の疲れは吹き飛びます。

高砂道院の自慢

高砂道院には、道院で修得したことを家庭や学校で生かしてくれている素直で積極的な拳士が在籍しています。例えば、家庭では家族の手伝いをする、学校では生徒会役員、学級委員長、運動会で応援合戦の団長になる、音楽会で代表の楽器を担当する、卒業式で代表挨拶を担当するなどです。これは、道院の拳士たちが作り出している雰囲気がよく、拳士同士が良い意味で刺激し合っているからだと思います。

また、中学生になっても継続する拳士も増えております。最近では学校の試験勉強や部活動等で忙しい中、2人の拳士が互いに協力し、援け合いながら試験準備を行い、見事式段に合格しました。2人にとってまた新たな自信につながる経験になったと思っています。副道院長の久保田三郎拳士をはじめ、一般拳士の方々には道院活動に協力していただいております。

今後の夢

今井明雄先生が設立した高砂道院を、私が5代目として引き継いでから、早いもので10年が経過し

ました。現在の夢は専有道場を持つことです。現在は、少年拳士中心の道院ですが、これからは一般拳士も増えてくれればと考えています。道院は地域の活動拠点です。いつでも拳士が集まる場所ができれば、拳士がより活動しやすくなりますので、いつかは専有道場を持ちたいと考えています。

全国の拳士へ

少林寺拳法の修行は、道院長になってこそその部分が非常に大きいと実感しております。

忙しい毎日、私たちが自由に使える時間は限られており、その使い方は考え方次第です。その中で私は、道院長を選択し、やってみた結果、本当に満足しています。もちろん大変な時もありますが、それ以上に得られるものが多くあります。素晴らしい人たちの出会いや貴重な経験が現在の仕事や社会活動で非常に役立っており、それが私自身の財産です。また多くの指導者の方々の活躍が自分の励みにもなります。

私は周囲の方々の縁により、道院長にさせていただきました。運が良かったと感謝しています。チャンスがあれば、いや、チャンスを手掴んで、是非とも道院長になられることをお勧めします。



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

研修会・講習会(地方)

開催報告

● 本山公認教区講習会

開催報告(派遣講師)

〔1月10日〕福岡教区(鈴鹿 成正)

〔1月30日〕三重教区(多月 文博)

● 教区研修会

〔1月23日〕群馬県教区、東京都教区、静岡県教区

〔2月27日〕静岡県教区

〔3月13日〕和歌山県教区

● 小教区研修会

〔12月11日〕山口西小教区

〔1月30日〕神奈川西湘小教区、奈良桜井小教区、横浜第四小教区

〔2月6日〕奈良市北部小教区・奈良市西部小教区合同、東京第十六小教区

〔2月13日〕香川中讀第一小教区・中讀第二小教区合同

〔2月19日〕静岡西部第一小教区

〔2月27日〕東京第八小教区、奈良西大和小教区・奈良郡山小教区合同

〔3月4日〕兵庫西幡第一小教区

〔3月9日〕静岡西部第一小教区

〔3月13日〕東京第一小教区、香川中讀第一小教区・中讀第二小教区合同

〔3月19日〕愛知西三河第一小教区

INFORMATION

道院認証

認証おめでとうございます

● 交代

■ 2022年4月1日付

札幌豊平道院 柿谷 隆之
熊谷道院 松本 駿
熊谷西道院 橋本 敏春
千葉清見台道院 清水 一志
東京清瀬元町道院 島澤 良次
東京蒲田道院 南 充広
一宮富士道院 江坂 翔太
鈴鹿中部道院 板井 一良

洛南道院
洛陽道院
京都鴨川道院
岸和田道院
豊中岡町道院
岡山中央道院
本部道院
別子道院
松山中央道院
八代道院

鈴木 拓史
山下 信
安道 亮
桶土井 一博
大塚 隼斗
尾崎 次徳
飯野 貴嗣
鈴木 翔貴
丸山 恭
福嶋 裕樹

● 参与

■ 2022年4月1日付

三沢中部道院 松村 高志
八戸南郷道院 森 鉄也
埼玉行田道院 向井 基樹
伊豆葦山道院 杉下 久夫
熱田道院 小穴 秀樹
大阪池田道院 北島 孝教
姫路西道院 中本 悟史
川西南道院 本慶 忠士

阿波池田道院 岩田 泰彦
伊予津島道院 松浦 和也
宇和島道院 濱田 公正
新居浜瀬戸道院 原 秀作
愛媛宇和道院 山本 堅一郎

法階昇格者

昇格おめでとうございます

正範士

■ 2022年3月13日付

高松 正純(三木道院)
荒井 章士(本部道院)

准範士

■ 2022年3月13日付

前司 道弘(長井ひなた村道院)
中安 正(多摩豊田道院)

瀬古 智哉(西宮津門道院)
松岡 哲也(岩国東道院)

僧階昇任者

昇任おめでとうございます

大導師

■ 2022年3月21日付

國吉 衛(流山道院)
大脇 早知子(西東京保谷道院)
福本 修平(横須賀衣笠道院)
大家 国人(石川大聖寺道院)
大塚 泰夫(名古屋一社南道院)
松田 孝弘(三重桑名道院)
児島 ひかる(京都園部道院)
大西 敏和(鷺敷道院)
中島 秀幸(福岡宗像道院)

権大導師

■ 2022年4月1日付

日野 勝利(横浜戸塚道院)
島 英夫(横浜戸塚道院)
小山 実(横浜本郷道院)

中導師

■ 2022年2月1日付

吉田 泰彦(厚木道院)
亀井 貴司(山梨郡内道院)

■ 2022年3月20日付

草野 勝弘(平道院)
榊原 淳(埼玉鶴瀬道院)
稲村 直樹(東京目黒道院)
加藤 明(東京大塚道院)
永井 巖(松江中部道院)

権中導師

■ 2022年4月1日付

菅原 勝人(いわき南道院)
吉野 敏之(川越道院)
袴田 一明(浜松中央道院)
八田 孝弘(播磨山崎道院)
西岡 利晃(榛原道院)
岡本 憲治(奈良中央道院)
奥村 浩(奈良片桐道院)
前田 史雄(紀州本町道院)

少導師

■ 2022年4月1日付

庄子 尚典(伊達道院)
澤 正樹(江別大東道院)
高橋 伸行(長井ひなた村道院)
比佐 和美(平道院)
松本 唯(平道院)
永井 鍊(福島中央道院)
絵面 照子(宇都宮青雲道院)
高浜 文夫(真岡中部道院)
佐藤 萌子(前橋橋道院)
小田切 紗羅(群馬北毛道院)
原口 恵(群馬富岡道院)
藤原 沙玖弥(草加道院)
奥山 毅(東京東品川道院)
芹野 孝信(東京大崎道院)

野々部 圭一(亀有道院)
稲増 和馬(亀有道院)
田島 茂(日野桜道院)
松本 延人(日野桜道院)
成井 英夫(日野桜道院)
井上 淳(東京飛鳥道院)
竹田 清美(八王子東道院)
橋本 翔(東京東陽町道院)
千葉 直樹(東京大塚道院)
平野 謙太(東京表参道道院)
海沼 西希(東京西品川道院)
渡辺 知昭(横浜日吉道院)
門川 治郎(横浜日吉道院)
阿部 祥平(川崎西道院)
木村 剛(横浜和泉道院)
吉川 亮(金沢東道院)
蜜澤 豊彦(塩尻桔梗道院)
飯妻 航希(清水袖師道院)
中野 士温(尾張旭道院)
松浦 啓子(尾張小牧道院)
松浦 有志(尾張小牧道院)
松浦 竜彦(尾張小牧道院)
九渡 健慎(湯の山道院)
服部 真宝(三重上野道院)
中山 真一郎(三重白山道院)
白仁田 聡(伏見桃山道院)

高見 健(伏見桃山道院)
 上嶋 脩真(伏見桃山道院)
 山田 真嗣(京都衣笠道院)
 増山 英明(尼崎潮江道院)
 穉原 葵生(土山道院)
 高橋 蒼人(昆陽道院)
 地戸 大仁郎(加古川氷丘道院)
 陶山 洋志(神戸垂水道院)
 永井 隆(奈良片桐道院)
 山崎 亮太(奈良安堵道院)
 清 龍一郎(奈良あやめ池道院)

堀 祐宜(奈良宝来道院)
 大井 敏孝(奈良宝来道院)
 大向 克明(岡山吉備道院)
 石本 新吾(広島八丁堀道院)
 元永 研司(広島竹屋道院)
 阿部 勝美(山口西京道院)
 大島 透(周南南道院)
 吉本 誠一郎(大塚道院)
 合田 正成(本部道院)
 大力 智(坂出久米道院)
 大坪 功明(福岡正法道院)

力武 富士次(那珂川道院)
 赤城 義隆(那珂川道院)
 佐々木 高(那珂川道院)
 井寺 誠二(久留米北道院)
 富山 歩(福岡大野城道院)
 保田 一成(佐賀中部道院)
 椛 琴乃(佐賀中部道院)
 愛甲 一宏(人吉道院)
 吉谷 弥真斗(人吉道院)
 高山 桂太朗(菊池道院)

お布施 心より感謝申し上げます

公認講習会

▷福岡県教区 30,000円
 ▷三重県教区 30,000円

布施

▷埼玉早瀬道院 林 昌幸 100,000円
 ▷豊田末野原道院 服部 俊美 10,000円

訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

いけだ まさお
池田 昭雄 洛陽道院元道院長、第157期生、大導師正範士八段、2021年12月30日逝去、満78歳

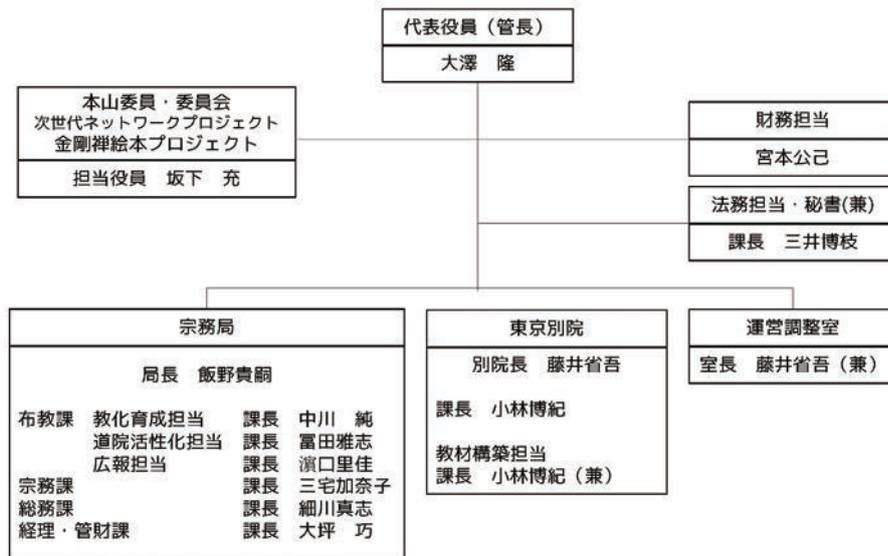
くぼ しゅうぞう
久保 周三 西陣北陵道院元道院長、第311期生、中導師准範士六段、2021年12月30日逝去、満74歳

かとう えつみ
加藤 悦三 鳥取東道院道院長、第283期生、大導師正範士七段、2022年2月20日逝去、満73歳

ひらの のぼる
平野 昇 名古屋中村道院道院長、第350期生、大導師大拳士六段、2022年2月20日逝去、満62歳

さくま しずはる
佐久間 静春 名古屋なるこ道院元道院長、第373期生、大導師正範士七段、2022年2月21日逝去、満73歳

金剛禅総本山少林寺(内局)組織図



◆お知らせ

金剛禅総本山少林寺役員の人事異動がありましたのでお知らせいたします。

●退任(2022年3月31日付)

- ・責任役員 東山忠裕(任期満了)
- ・総代 玉村 好(定年)

迎田展孝(責任役員就任により)

●就任(2022年4月1日付)

- ・責任役員 迎田展孝
- ・総代 伊東一男
- 松本好史

行の門宗

修練に向き合う相手



意識の方向

あなたは普段どのようなことに意識を向けて修練を行っているでしょうか。自分の姿勢や呼吸、技のコツ、体捌きや身体操作、間合い、攻撃線を外すこと、相手の急所の位置、他にもたくさん出てくるのではないのでしょうか。どれも技法を行う上で重要なものですが、今回は、それらの中でも特に、相手に意識を向けることについて考察していきます。

私たちの修練は組手主体であり、合掌礼で合わせるそこから始まります。そして、一度対面したら、その対面の関係が終わるまでは、相手に意識を向け続けることとなります。もし意識を向けられていなければ、互いの呼吸がずれ、合掌礼のタイミングすら合わ



なくなりません。

合掌礼の後の技法運用においても、相手への意識を向けているからこそ、刻々と変わる相手との距離に応じて適切に間合いを合わせる事ができ、いつ相手が踏み込んでくるのかを察知して技法を行使することが出来ます。逆に「うまく反撃できなかったらどうしよう」「投げるためには相手の手首をこのように攻めていこう」この技の形はこの手順で合っていたかな」という思考が働くときは、自分の思考や感情、動作に意識が向くことになり、体は相手と向かい合っている、目の前の相手からは意識が外れ、自分自身とだけ向き合うこととなります。その結果、相手の攻撃するタイミングや体勢を無視して技法を行うこととなり、返ってうまくいかないということがあるのではないのでしょうか。

どの立場においても

技法において相手に意識を向けることの重要性は、攻者にもあてはまります。例えば、金剛拳で固められた後に起き上がる時は、相手から十分に間合いを取り、相手から目を離さずに立ち上がるように行います。この時に意識が自分だけに向いている場合、その間、相手への意識が離れ、おもむろに立ち上がった時、動作がもたついたり、その後の復位や残心が雑になっていくのは想像に難くありません。

相対演練は、技をかける場所だけが修練ではありません。対面して合掌礼をするところから始まり、技法を行い、残心を行って、互いに最後の合掌礼をするところまでが一つの流れになります。

どの場面においても

日常における人間関係を相対の関係と捉えると、以上のことは日常生活にもあてはまります。人と会って挨拶をする時、会話をしている時、私たちはどこに意識を向けているのでしょうか。その人とその日別れるまでの間、どれぐらい相手に意識を向けられているのでしょうか。相手に意識を向けているからこそ、次に相手が何を話したいのか、何を望んでいるのかを理解できるようになります。コロナ禍において、人と会うことのありがたさを改めて実感したという方も多いでしょう。自分の心と体、そして、その時間、その空間を人と共有することは大変貴重とも言えます。相対演練を行う中で、相手への意識の向け方を振り返り、日々の生活でも意識していると、人間関係がより深まっていくのではないのでしょうか。
(富田雅志)

DISCUSSION

さらに考察を深めるため

- 始まりの合掌礼から終わりの合掌礼まで意識を相手に向けて、法形を行ってみましょう。
- 家庭や仕事の会話において、心と体はどのぐらい相手に向けられているでしょうか。



宗門の行としての少林寺拳法

相手と向き合う修練

易筋行の修練は組手主体が基本であり、合掌礼に始まり合掌礼に終わる。一度対面したら、その相対の関係が終わるまでは、相手に意識を向け続けることになる。相対における意識の向け方は、日々の人間関係にもあてはめることができ、我々は人との関り方を修練で学んでいる。

→詳細は11ページ「宗門の行」へ



仁王拳 内押受突

金剛禅総本山少林寺公式サイトで動画をご覧いただけます。

文/富田雅志 演武者/中川 純 正範士七段、飯野貴嗣 准範士七段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法



金剛禅総本山少林寺のSNSも、ぜひご覧ください。

★New★